

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	80	軌道整備事業	事業コード	35420
事業名	軌道整備事業会計					
評価担当課	所属名	交)事業管理部 経営計画課				
	課長名	飯岡 慶崇	担当者名	小磯 勇人	電話番号	896-2716
施策名	主	軌道整備事業会計				
	副					
アクションプラン	○ 対象 ● 対象外		戦略ビジョン	○ 対象 ● 対象外		
事業の性質	● 経常経費 ○ 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	○ 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他				
	目的	短期	安全の確保、快適なお客様サービスの提供、まちづくりへの貢献、経営力の強化という4つの経営方針に基づいて、経営基盤の強化と安全運行の維持を図り、より効率的で持続可能な事業運営を行っていく。			
		長期	かけがえのない市民の財産である地下鉄と路面電車を最大限活用し、公共交通ネットワークの中核として、お客さまのゆたかなくらしとまちの発展を支える。			
	取組内容	路面電車事業8.9kmの施設・車両の保有整備事業。地域の拡大や人口の増加を支え、市民の足として市の発展に貢献してきた。安心して安全な運行に必要な整備を目標に運営している。				
	実施結果	輸送人員は年間6,804,237人、1日当たり18,642人となった。				
事業実施における工夫点	札幌市路面電車活用計画に基づき、持続可能な経営形態への見直しを図るため、経営・安全の両面から、事業運営の在り方について検討し、令和2年4月より上下分離導入を行った。					
対象者	利用者	開始	0年度	終了	0年度	
関連法令・条例・要綱等	地方自治法、地方公営企業法、軌道法等					
他都市の状況	札幌市以外に公営で軌道事業を行っているのは、函館市、東京都、熊本市、鹿児島市である。					

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	1,491,299	1,499,000	1,381,685	1,661,000	
うち特定財源	0	0	0	0	
人工	42.0	38.0	35.0	35.0	
人件費	0	0	0	0	
計(事業費+人件費)	1,491,299	1,499,000	1,381,685	1,661,000	
事業費の内訳	令和3年度決算	人件費:172,567千円 経常経費:504,850千円 減価償却費:689,734千円 企業債利息:7,072千円 その他:7,462千円 ※企業会計の事業のため、職員の人件費は事業費に含まれる			
	令和4年度予算	人件費:198,000千円 経常経費:586,000千円 減価償却費:857,000千円 企業債利息:9,000千円 その他:11,000千円 ※企業会計の事業のため、職員の人件費は事業費に含まれる			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
活動指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
成果指標1	指標名	輸送人員(1日平均)			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	17,329人	16,050人	18,642人	18,741人	
成果指標2	指標名	資金不足額の未発生			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	発生していない	発生させない	発生していない	発生させない	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	平成24年4月に策定した路面電車活用計画や令和元年6月に策定した札幌市交通事業経営計画に基づき、さまざまな取組を進めた。 また、依然として、コロナ禍による乗車人員の減少が続いているが、感染防止対策等の実施により、輸送人員の目標には到達した。 資金についても、運送事業者からの施設使用料を減免した影響により、256,601千円の経常赤字となっているものの、長期借入金により資金不足は回避できている。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	令和元年6月に策定した札幌市交通事業経営計画に基づき、お客さまにとって快適な環境づくりのため、冷暖房設備などを備えたバリアフリー対応の低床車両を2両導入した。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	平成24年4月に策定した路線の環状化(ループ化)や低床車両導入等の具体的な取組と経営健全化への考え方を整理した路面電車活用計画や令和元年6月に策定した札幌市交通事業経営計画に基づきさまざまな取組を進めた。令和2年4月に導入した上下分離制度をしっかりと進め、引き続き安心安全な運行、快適なお客さまサービスの提供、まちづくりの貢献、経営力の強化に努めていく。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	令和3年度は低床車両の導入を継続するなど、人にやさしい施設整備を実施した。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外 市民参加結果への対応 <input checked="" type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映				
今後の改善点	コロナ禍においても経営基盤の強化に努め、まちづくりへの活用を図る必要がある。				
前回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	なし		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	○ A ● B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	コロナ禍においても経営基盤の強化に努め、まちづくりへの活用を図る必要がある。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	● 改善 ○ 現状維持 ○ 休止・廃止 令和元年度に策定した札幌市交通事業経営計画に基づき、安全の確保及び快適なお客さまサービスの提供等を進めていくが、一方で、コロナ禍で乗車人員の著しい減少は続いており、適切な規模の建設改良事業の実施等、経営計画の見直し作業を進めていく。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ その他		見直し効果額	0
	施設整備事業者として、安全で安心な運行に必要な整備を行う。				